

核兵器禁止条約の第2回制定交渉会議への出席等について（帰国報告）

1 概要

米国・ニューヨーク市で開催されている核兵器禁止条約の第2回制定交渉会議に出席し、被爆地の市長として、また平和首長会議の会長として、存命のうちに核兵器の禁止を見届けたいとの被爆者の願いを踏まえ、各国の為政者が対立の中ではなく、建設的でオープンな議論を重ねて、実効性のある核兵器の法的禁止を実現するよう訴えた。

2 出張者

広島市長（（公財）広島平和文化センター会長、平和首長会議会長） 松井 一實
ほか3名

3 出張期間

平成29年6月13日（火）～6月18日（日）4泊6日

4 主要用務の報告

(1) 6月14日（水）

中満国連事務次長兼軍縮担当上級代表との面会

まず、中満上級代表から、8月の広島・長崎両市の平和記念（祈念）式典と第9回平和首長会議総会に出席する、被爆者の方とも触れ合う機会を持ちたいとのお話があり、松井市長からお礼を申し上げた。また、国連が対話を通して、核保有国とその同盟国が核兵器禁止条約に加盟するよう努力してほしいと伝えた。

同条約については、これまでの核兵器不拡散条約（NPT）や包括的核実験禁止条約（CTBT）などと比べ、一歩でも二歩でも進んだものにしなければならないとの点で、両者の意見が一致した。



(2) 6月15日（木）

ア 核兵器禁止条約の第2回制定交渉会議傍聴（1日目）

会議の冒頭で、コスタリカのホワイト交渉会議議長から、条約案採択に向けた意気込みを語る挨拶があった。続いて中満上級代表が、長年の核軍縮を訴えてきた被爆者の功績を称え、国際社会の緊張が高まっている中だからこそ、核兵器が廃絶される未来につながる架け橋が必要であると述べられた。

イ 同交渉会議でのスピーチ

松井市長は、被爆地の市長として、また平和首長会議の会長として、長年核兵器廃絶を訴えてきた被爆者の切実な思いを伝えるとともに、今会期



中に条約案が採択されるように各国政府の建設的でオープンな議論を期待すると要請した。さらに、条約が実効性のあるものとなるよう一層の努力が必要であり、特に核保有国の指導者には、自らの核軍縮にも果敢なリーダーシップを発揮すべきであると訴えた。

(3) 6月16日(金)

ア 核兵器禁止条約の第2回制定交渉会議傍聴(2日目)

前日に続き、前文についての議論が終日続いた。各国からは、使用の威嚇、移送、財政面についても触れるべき、NPT第6条や国際司法裁判所(ICJ)の勧告的意見を含めるべきといった様々な意見や、核兵器の移送や核抑止に対する反意、核軍縮における進展のなさに対する不満などが表明され、細かい表現の話でなかなか進まないところがあった。

イ ハイノツィ駐ジュネーブ国際機関代表部大使(オーストリア)との面会

ハイノツィ大使は、今回の条約案は、将来家を建てるための土台ととらえており、全てを最終的な文書として決め込んでしまうのではなく、核保有国等の非締約国の参加に向けては柔軟性も必要との考えを述べられた。松井市長は、条約案採択後、核保有国等に対して方針転換を呼び掛ける働きかけについては、市民社会もしっかり後押しをしていきたいと伝えた。



ウ ホワイト交渉会議議長(コスタリカ)との面会

松井市長はホワイト議長に対し、条約案の採択後は、核保有国と非核保有国のオープンな議論のための環境づくりを支援したいとの思いを伝えた。



エ デブラシオ ニューヨーク市長との面会

昨年6月、全米市長会議総会において、平和首長会議の米国でのリーダー都市であるデモイン市のカウニー市長等の尽力により、平和首長会議の核兵器廃絶に向けての活動に賛同する決議文が採択された。この決議文の共同提案者に名を連ねていただいたデブラシオ市長にお会いし、松井市長はそのお礼を述べた。

デブラシオ市長は、カウニー市長からもさらに平和首長会議のことを聞いて、今後、加盟については少し時間をかけて検討したいと述べられた。



5 所感

- (1) 今回、交渉会議の議論が本格的に深まる前に、NGOの最初のスピーカーとして発言することができた。長年核兵器廃絶を訴えてきた被爆者が存命のうちに核兵器の法的禁止を実現するよう要請し、各国政府が建設的でオープンな議論を重ね、今会期中に条約案が採択されることを期待すると伝えた。このスピーチに対し、多くの方々から拍手をいただき、十分に意は伝わったと実感した。
- (2) コスタリカのホワイト議長や、オーストリアのハイノツィ大使を始め、国連・各国政府関係者等との面会においても、被爆者の思いをしっかりと伝えた。また、平和首長会議として、条約案採択後も、世界中の加盟都市や他の市民社会の団体と協力しながら、核保有国や核の傘の下の国の条約参加を呼び掛けるとともに、市民社会の核兵器廃絶に向けた意識を高揚させ、幅広い国際世論の形成を図ることで、世界の為政者が勇気と洞察力を持って行動できるような環境作りに努めたいと伝えた。
- (3) さらに、広島、長崎の被爆者や多くのNGOの方と議場でお会いし、核兵器廃絶を共通のゴールとして掲げる仲間としての連帯を感じた。中でも、ヒバクシャ国際署名を被爆者の方々が直接ホワイト議長や中満上級代表に手渡す際に立ち会い、松井市長自身も既に署名し、この活動を支援していることを議長に伝えることにより、この活動のアピールに協力できたことは意義深いものであった。
- (4) 中満上級代表との面会においては、今夏の平和記念式典、平和首長会議総会に御出席いただけるとお聞きした。国連軍縮部のトップが、就任の年に早速、両被爆地を訪問してくださる事は被爆者にとって大変嬉しいことだと伝えた。また、今回の交渉会議について率直な意見交換を行ったが、核保有国を取り込むために対話を重視していくとの中満上級代表の考えは、平和首長会議の思いと一致するものであり、今後の国連との連携がさらに深まるとの確信を得た。
- (5) デモイン市のカウニー市長の尽力により、ニューヨーク市のデブラシオ市長に面会することができた。デブラシオ市長は、米国内でも各市長が共通の市政における課題を共有し、連帯することは非常に意義があることではあるが、平和首長会議への加盟については少し時間をかけて検討したいとの考えを示された。現在、米国では210都市が加盟しているが、ニューヨーク市やワシントンD.C.など影響力のある都市に加盟してもらうことにより、米国内の加盟都市をさらに増やしていきたい。